

# AI時代の知財人材育成ガイド：「作業」から「意思決定」へのシフト

## スキルセットの地殻変動 (SKILLSET GEOLOGICAL SHIFT)

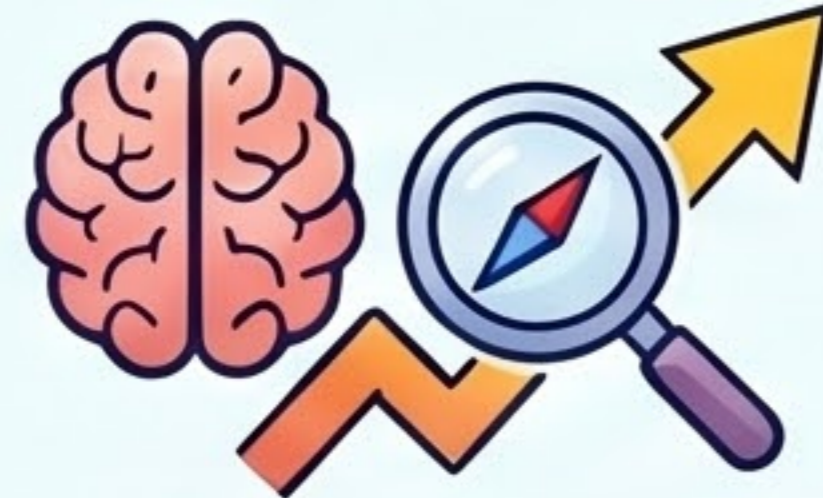
価値が低下するスキル  
(定型作業)



定型的な調査・ドラフト・形式チェック

検索式の作成や明細書の初稿作成などはAIによる代替が進み、人枠がゼロから行う価値は縮小します。

価値が高まるスキル  
(コア価値)



発明の本質を見極める  
戦略性と「目利き力」

AIが出した結果の直し懸しを判断する力、発明書から情報を引き出すとアリングカ、事業運動の相時戦略設計が重要になります。

## 旧来の作業 (OLD TASKS)



## AI時代の育成三層構造 (AI-JT) AI-ERA THREE-LAYER TRAINING STRUCTURE

層3：「認知的強制機能」の実装  
AIの答えを見る前に「自分で考える」全演習において、まず自力で回答を作成してからAIと比較させる「ワンクッション」を制度化し、思考の意欲を生み出します。

層2：特許特化型AIを「実務基盤」にする  
領域別のAIツールを業務プロセスに組み込むサテリア (朝日新聞・中間社主)、AI Samurai (利権性評論)、Patentfield (検索・分析) 等の専門ツールを使い分けます。

層1：汎用AIを「メンター」にする  
24時間対応の「壁打ち相手」として活用ChatGPTやClaude等を使い、迅速なく質解できる環境を整え、用脚解航や事例シミュレーションを行います。



## 新たな意思決定 (NEW DECISIONS)

## 最大のリスク：認知的負債と思考力低下 GREATEST RISK: COGNITIVE DEBT & REDUCED THINKING ABILITY



AIへの信頼が高いほど「批判的思考」が欠如する

MicrosoftとCMUの調査では、AI出力を点検・改善するスキルがないと、思考を放棄する傾向が確認されています。

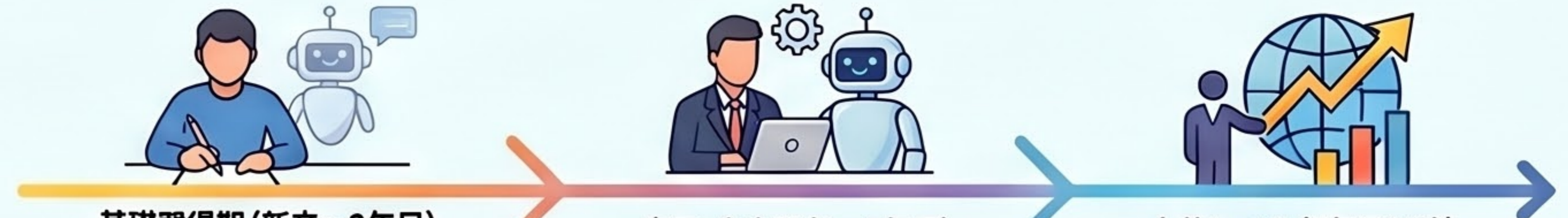


AIへの外部委託が「認知的負債」を蓄積させる

MIT Media Labの研究では、ChatGPT利用申請は脳の接続性が弱まり、隠れた懸念の内質する引用できないケースが報告されています。

## レベル別育成 ロードマップ LEVEL-BASED DEVELOPMENT ROADMAP

## 活用すべき 主要ツール群 KEY TOOLS TO UTILIZE



基礎習得期 (新卒~2年目)  
「自力優先」で基礎体力を構築する  
明細書は手書き執筆を奨励させ、AI初稿と比較することで「判断基準」を定めます。  
AIは学習メンターとしてのみ無期限に使用。

応用・自走期 (3~5年目)  
AIを「主力ツール」として解禁  
提議対応や翻意でAIを使いこなし、AI出力の拒絶機確認(自利き)を評価項目に組み込みます。

上位レベル (5年目以降)  
戦略設計とBPR (業務再設計)  
AI導入の優越、誘惑を動かす力、AI時代の検閲指導など、プロセスの再構築を担います。

	カテゴリ	主なツール名	期待される効果
	汎用・基礎	ChatGPT, Claude, Gemini	壁打ち、学習、文書作成の基礎
	明細書・中間処理	サマリア, AI Samurai	読解支援、拒絶理由対応、チェックの自動化
	検索・分析	Patentfield, PatSnap, LexisNexis	読込時間の縮小(約65%)、ポートフォリオ評価
	調査エージェント	Perplexity Patents	出典明示型の特許検索、AI検索体験の導入